

特殊技術加工によるテキスタイル制作の可能性

個展packing...からの研究報告

前 田 博 子

(2016年3月14日受理)

はじめに

特殊加工によるテキスタイル制作はわたしが個展packing...を行う上での制作過程と制作物についての報告である。

packing...

会期：2015年8月20日(木)～30日(月)

[オープニングパーティー8月22日(土)]

会場：E&Cギャラリー [福井市問屋町3丁目111]

コンセプト (原文)：普段着用する衣服は自身の自己表現として用いられる。しかし本来衣服とは身体を包み込む大切な役割を担っている。わたしたちのからだは「こわれもの」であり、わたしたちのこころは「取扱注意」なのである。ガラスのように現実的な落下によってこわれてしまうものは梱包資材をもって厳重に梱包され、非常にわかりやすく細心の注意を払うよう指示される。ということは、わたしたちの「こわれもの」の身体と「取扱注意」のこころは入念な梱包を必要としているのかもしれない。

1. 背景と目的

ファストファッションが主流の今日において、わたしたちの身体を纏う衣服は機能性というよりも流行ということと共に歩み変化するものと捉えられがちである。低コストということばかりで憶測できるように衣服は非常に安価なものが増えてきている。また、施設等の空調設備が整っているところが多いため本来の通気性や保温性といった

機能をもたない衣服が多く存在する。それらは季節を問わず着用されており、気温の変化に伴ったコーディネートというよりは下着や外着によって温度調整をおこなっている。そのため住居や施設などの箱に入ってしまうえば快適な温度が保たれているため衣服における体温調節は不要となる。実際に空調完備の場所でさえもコートを脱がない人が増えてきているように感じる。これは衣服が本来もっている保温性という機能に欠けていることを意味する。コートを着て暖かな場所においても「暑さ」を感じないということはコートの機能性に問題があると思えない。大げさに言えば衣服そのものの機能や特質が重視されることはなく、見た目だけの外装的要素でしかない。実際の気温に関係なく、他者からみて「暖かそう」「涼しそう」に見えれば季節感を意識したコーディネートに仕立てることが出来るのである。また、意匠性の高い商品においては高額ということもあって売れ行きが好ましくないため大量につくられることはなく数を限定してつくられている。そのため既成品という概念ではなくオートクチュールに近い考えで生産されている。技術力があっても工場を運営する金銭が伴わないため、特殊な技術をもった加工場でさえも閉鎖するといった問題を抱えている。またインターネットの普及により肌に直接触れるものであるのに、画面閲覧によって購入を決定する者も多い。つまり、今日において「洋服」というものは平面的な塗り絵と相変わらなさと推測できる。これらの点を踏まえて意匠性と機能性を加味したものづくりをおこないたいと考えたことがきっかけである。

2. 展覧会の概要

「洋服」とは毎日当たり前のように着るものであり、大量に生産され大量に消費される。わたしたちは衣服を着ては脱ぎ、脱いでは着るを繰り返している。これらの行為の全ては梱包材を剥ぎ捨てる行為と似ており、衣服は梱包資材としての機能を持っていたことに気づく。高級なブランドの紙袋を大切にしている人、大切なひとからの贈り物をもった状態で保管している人、モノの扱い方や使い方は人それぞれであるものの大切なものを大事に扱いたいと思う気持ちは皆同じであると仮定した。また、ファストファッションと言われる洋服が大量につくられている現状から、それらと対峙した洋服は重宝されると考える。モノを買う人々の一部では「良いものを長く使う、着る」という考えも増えてきている。そもそも衣服の価値や定義を再認識、再構築する必要があるのではないのだろうか。ものが増え続ける今、わたしたちは何をもって商品を選び、使用してゆくのかを、つくり手である一方消費者でもある者として考察、研究を行う。

また作品は鑑賞するだけでなく体感することを目的とするため、鑑賞者が積極的に作品に触れられるよう工夫する。作品に触れることにより、視覚のみならず触覚にも訴えるものづくりを通して衣服についての考えを深めてもらえるような制作、展示とする。

3. DMデザイン

A3サイズに「招待状」と「御礼状」を同時に制作。大きいものを「招待状」とし、小さいものを「御礼状」とした。2種類のDMを制作するとコストが2倍になるため、印刷完了後に1枚を2枚に分ける方法をとった。

来場を促す仕組みとしてリーフレットを「招待状」とし来場者を招待客として扱うための仕掛けづくりである。届いたときの違和感を重視するため葉書や用紙サイズとは異なる見慣れないサイズを考察した結果、折って荷札をイメージさせるデザインを考案することができた。来場者へ期待感

を抱かせる工夫としてテキスタイルのプリント柄に使用するアイコン(モチーフ、図案)を用いたデザインで構成。手跡がのこるデザイン(穴あけ、針金付け)を意識させるためのダイレクトメールとする。そして郵送時の封筒はエアパッキン製のものを使用し期待感と新鮮味を与える。また依頼業者は本学卒業生が勤務しているデザイン会社(株式会社 真空ラボShin-Qoo Lab.)に依頼。卒業生との実践的なやり取りはお互いに有効であったと考えられる(図1、2、3参照)。

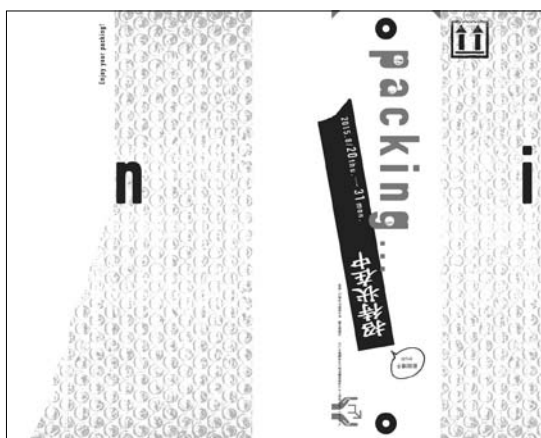


図1. DMデザイン表面



図2. DMデザイン中面

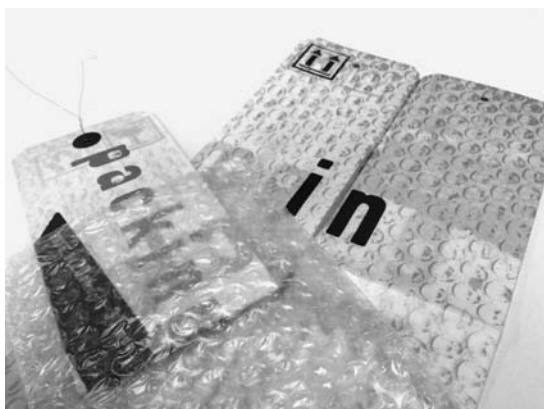


図3. DMデザイン：株式会社 真空ラボ 松浦えり

4. 本展覧会での制作物

packing...テキスタイル
packing...ブラウス
packing...ボタン
packing...コースター
packing...スカーフ
packing...ハンカチ
packing...バック
packing...パンツ
packing...からの欠片ブローチ

5. 制作テキスタイルについて

梱包材として知られる「ぷちぷち」のようなテキスタイルを制作。シルク綿に「われもの注意」「取扱注意」の文字や取扱いの注意を促すマークなどをシルクスクリーンプリントしたものを基布とし（図4）、その上にテンセルパイルをフロック加工した生地をpacking...textailとした。透明感、軽さを表現するためカラーは白やグレー、シルバー等のクリア感のある無彩色を選んだ。配達用の荷物などには目立つ色のタグがつけられる事が多い。本来梱包用のタグは注意を周知するためのものなので、荷物よりも前に扱い方についての情報を取扱者に提示してある。今回わたしが着目したヒトのこころや身体は明確な注意というよりは留意程度のことであって、目立ち過ぎないことが必須である。繊細な心情や感情を表現するためには細心の素材選びが必要であり、華奢であれば

あるほど素材感が露骨に出てくるのでコンセプトをわかりやすく誇示するため慎重な素材選出が必要とされる。

〈基布について〉

シルク綿（S30%C70%）ローンの特徴としては光沢があり、通気性も良いことがあげられる。また混紡糸を使用していることから交織されたものよりは半透明性を提示できる。

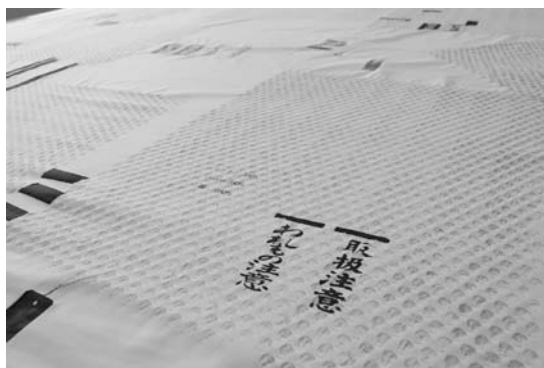


図4. 基布制作（シルクスクリーンプリント）

〈フロック加工について〉

フロック加工は生地に着着剤を塗布した後、生地に静電気を利用しパイル（短く切り揃えた繊維）を生地に対して垂直に植え付ける加工方法である。パイルそのものの素材は多岐にわたるが、基布に天然繊維を使用していることからテンセルを使用した。これは完成した布に一体感をもたせるため、のちに土に還る天然繊維及び再生繊維から選んだ結果である。テンセルは再生繊維の中でも繊維強度が強く、光沢にたけており、滑り感もあるため今回の展覧会の目的の1つである触覚に通ずるものがある。テンセルパイルは他の素材（ナイロンなど）に比べパイルの密集度が高いが故、強固な集合体となって直立する。しかし植え付けただけの状態では本来の特性が活かせないため、シルク綿とテンセルの融合を考慮しテンセルの滑り感ならびに光沢感を最大限に引き出す加工（ブライト加工）を施している。その効果も相まってフロック部分は弾力性の高い、上品な光沢をもったものへと変貌したのである。これらのことで布版エアパッキングが完成した（図5）。シルク綿

ローンの華奢で微光沢な質感とテンセルブロックの独特の光沢は互いに異素材を意識させつつもまとまりのある仕上がりとなった。素材の風合いは触ってはじめてわかるものである。ネット購入が増えた今日においては「見る」だけで「買える」ことが恐ろしく感じるが「ぶちぶち」は誰でも一度は潰したことがある素材である。そのため見れば触りたい、触れば潰してみたいくなる「きっかけ」をデザインとして組み込んである。ふれることによって触覚を意識させられたのであれば、来場者が次に洋服を買うときには商品に触り、視覚のみならず手や肌の感覚を意識した商品選びにつながるのではないかと推測したためである。



図5. packing...textile (撮影：中村けんじろう)

6. 結果、考察

今回はテキスタイルや衣服を梱包資材として表現するため、テキスタイル制作においては素材感を大切にしており、弾力性や厚みへのこだわりと肌触りを追求した。独特の触感を体感してもらうために、今回はすべての作品を手にとって触れるようにした。来場者および鑑賞者が作品にふれ、触っても押しても潰れない「ぶちぶち」を体感することにより、鑑賞者同士のみならず制作者とのコミュニケーションにもつながられた。来場者の購買方法が変わったかという追跡までは出来ていないが、布の触感を楽しんでもらえたと自負している。

また、今回制作したテキスタイルそのものにも取扱い表示が必要となった。

○家庭洗濯の場合

弱洗濯、ネット使用、ソフト脱水
手洗い、もみ洗いの禁止

乾燥機使用禁止

吊り干し

塩素系漂白剤の使用禁止

アイロン使用の場合はあて布での乾式アイロン

○クリーニングの場合

石油系ドライでの短時間洗い

ネット使用

タンブラーの禁止

つくりたかったもの、つくったものにも取扱いについての説明が付いたことによって、さらなる意味や意図が追記できている。

これらのことを踏まえて、作品を「つくる」という行為と「みせる」という行為の中に「つくり手」としての側面を再度認識することができた。「つくる」ことだけでは固執してしまう考えでも「みせる」ことを意識することによって明確に提示できる。つくったものをみせ、触ってもらう工夫から人々の関心を高める方法のひとつとして今後も考察する。創作するということの根本には明快なコンセプトが必要であり、それらを元に制作してゆくのであるが、作業途中で意図とは異なる事象が出現する。自身の考えに基づく制作内容は全て一新され白紙に戻されることもある。今回の展覧会では衣服や布を梱包資材として仮定し、繊細な空間づくりを目指した。しかし人の慣れというものはとても厄介で壊れてしまうとわかっているものをわざわざ割ってしまうという行為を2度体験することとなる。こぼれ落ちたものをひろっては使えるものへと変え、モノの大切さや守るものへの留意を掲示するはずが根本から覆るという体験は、壊れれば替えてしまえる時代を変えうることなど不可能なのかもしれないという考えが過ることとなる。とはいえ今回の展覧会では自身の考えの変化を時系列として明示しており、考えが変動してゆくさまをみせる方法をとった。そうすることで考えてきたこと、つくってきた内容が明確になりわかりやすい展示となった(図6)。

さいごに

最初に提示した大切なモノには細心の注意を払いましょう。というもののづくりには至らなかった

が、実際わたしたちは生きていくうえでも大切なモノを取捨選択しているということに気づくことができた。なにかひとつだけと思ってあれもこれもと手を伸ばすと何も守れていないということもある。

現実や実際という結果の前にはさまざまな過程があり想いがある。きっと忘れられてしまう事柄や誰かを大切におもっていた気持ち、モノへの愛着、出来事への落胆や感謝等々、日々の生活の中で忘れないようにしたい、留めておきたいと思ってもらえる作品や事象をつくることはこれからも必要とされる。ファッションにおける問題は社会が抱える問題のごく一部の事象に過ぎないが、「考える力」が不要とされる時代はない。ものづくりとは「もの」自体が評価されがちであるが、事象や想いを伝え感じさせることで、考えるきっかけをつくることも「ものづくり」のひとつとして加味されるべきである。



図6. 会場風景 (撮影：中村けんじろう)

また、この展覧会を行なったことで、西武福井店での「50年後のおしゃれマダム」[2015年9月18日(金)～27日(日)@西武福井店]や同ギャラリーでの「WArtist -越前和紙を拓く-」[2015年10月4日(日)～25日(日)@E&Cギャラリー]への出品依頼があったことを申し添えます。

付記

『packing...』は学校法人福井仁愛学園後援会研究成果発表経費の助成をうけたものです。

協力企業：宇仁繊維 株式会社
株式会社 大晃



惹かれて、好きになる。

お客様用のガラスコップと
一目惚れして買ったお気に入りの磁器を
ここ数日で2度も割ってしまった。
どちらも不注意によるもので、
ガラスコップは反物をぶつけたことにより床に落ちたし、
お気に入りの磁器は洗い終えた食器を元の場所に戻そうと、
食器棚を開けた瞬間に床に落ちて割れた。
毎日、毎日
「取扱注意」と「われもの注意」の文字を
シルクスクリーンでプリントしているのに、
ただの不注意でこわしてしまうことを実感した。
ヒトは「ワレレ」とわかっていても慣習になるし、
「コワレレ」と知っていてもちかよってしまう。
何をつくるにせよ、ぬけおちる部分はあって、
それらを拾おうとする行為と戯れている気がした。
それは「もったいない」という言葉からくるものではなく
ただただ「惹かれる」「好きだった」という気持ちそのもの。
大きな布になかなかハサミが入れられない私も
小さな欠片をいそいそと集めているもわたしも
どちらも布に「惹かれ」
欠片に「好きだった」という感情を抱いている。
「取扱注意」「われもの注意」という言葉より、
愛着が優ってしまうことが、ものを大切に扱う秘訣かもしれない。

前田 博子／まえだ ひろこ

テキスタイルプランナー
仁愛女子短期大学 生活科学学科 ファッションデザイン担当講師
一般財団法人 日本テキスタイルデザイン協会 正会員
日本テキスタイルカウンシル 会員

兵庫県姫路市出身

2005年 京都造形芸術大学 染織コース卒業

2007年 京都芸術工芸大学 芸術工芸研究科 ファッションデザインコース修了

宇仁繊維株式会社(大晃) テキスタイルデザイナー

2010年 仁愛女子短期大学 生活科学学科 ファッションデザイン担当講師

2005年 金沢21世紀美術館 開館1周年記念事業 オープニング公開芸術担当 [石川]

2006年 Fashion design contest KOMATSU 石川県知事賞受賞 [石川]

2006-07年 宇仁おもしろ展2006-2007 出展 [ギャラリーマロニエ・京都]

2008-09年 外派まつり2008-2009 出展 [京都]

2011年 ものうみ展 出展 [Window Gallery (京・京都)]

2011年 AQ(ART2011) 出展 [東京]

2011年 Four展 出展 [金沢21世紀美術館・石川]

2013年 AQ(ART2013) 出展 [東京]

2014年 Japan's Fiber Art MINI-Part2: [The Sculpture Center クラップランド オハイオ/USA]

展覧会キャプション：本学教授 西畑敏秀